



ゆうすいの詩集 5

さくらじまゆうすい

生きていてもいい

生きていてもいい

僕は生きていても仕方のない人間だと自分を責める

僕は愛されている実感がないから

僕は仕事もしてないし

お金だってない

こんな自分についてくる人なんてありえない

僕は祝福を受けながら産まれてきたのだろうか

不幸に次ぐ不幸が僕を襲う

誰かを愛したい

もし僕の心に愛が残されているのなら

誰かに愛されたい

僕に愛を感じられる心があるなら

でも振り返れば僕の人生も悪いことばかりじゃなかった

それなりの人生を送り

それなりに人を愛した

僕もそれなりに夢はあるけど

どこかに逃げ道を作ってごまかしてきた

夢は夢で終わらせていいのだろうか

夢をかなえるため努力すべきだろうか

夢をかなえたらその後は何をすればいいのだろう

夢は夢だから頑張れるのかもしれない

もう僕は生きていてもいい人間になれそうだ

忘れられない人

忘れられない人

人間覚えていることもあれば

忘れてしまうこともある

覚えていたい瞬間を忘れてたり

忘れてしまいたい出来事を覚えていたりする

昔あんなに好きだった人を

おぼろげにしか覚えていない

新しい恋に落ちるたびに

あの人のことを忘れてしまう

大切な人との別れをいつまでも忘れたくないけど

新しい人と出会っては

大切な人は今では胸の奥へ

でも人間って忘れていくからつらくならないんだよね

出会いがあるから人は生きていけるんだよね

永遠を誓ったあなたのことも

今ではおぼろげな記憶の中

あなたを失うことを一番恐れていたのに

今、あなたのことを思い出せば心は温かくなる

あなたと結ばれないまま別れたことを

今でも後悔している

でも心と心は確かに強い絆で結ばれていた

若き日の思い出

誰かを深く愛せたことを

今では確かに生きていた証だと強く信じている

誰かに騙されたとしても

確かに愛はあるのだと信じられる

君と出会えた日々を

いつまでも胸の奥にしまっておくから

いつまでも思い出せるように

夢はそれなりにかなえられる

俺の夢って結局なんだっただろう

有名になりたいとかお金を儲けたいとか

そんな大きな夢など見ていた

でもそんな夢に向かって努力してよかった

俺自身がだいぶ変わった

前向きに考えられるようになったし

今はどんな方向へ進んでも頑張れるような気がする

入院してから詩も書き始めたし

本を出版するという夢の一つもかなえられる

インターネットで電子書籍も出版できることがわかったし

夢はそれなりにかなえられるものだとわかった

ほかの夢はなかなかかなえられないけど

こうやって文章を書いたりしているのが楽しい

こんな楽しいことを仕事にできたらいいけど

ほかに自分に合った仕事ができそうな気がしてきた

最後はハッピーエンドで終われるだろうか

もう君には会えない

こんなに切ない気持ち

久しぶりだった

もう君に会うことなんてないのに

あきらめるしかないのに

それでも恋をした

今は9月

風が涼しくなってきた

君の住む町に行きたい

でも行けない

君にとって僕はどんな存在だったのだろう

僕は誰に対しても心を閉ざしたまま

生きていくことを覚悟していた

そんな僕の心を開かしてくれたのは

ただ一人君だけでした

気が付けばもう君に会えないなんて

運命のいたずらだろうか

君に会えない今は

ただ秋風に吹かれながら

町の中をさまよっている

生きる希望もなくしかけたけど

ただ今でも君のことを想うだけでいい

君は笑いの絶えない場所にいる

僕は相変わらず独りで過ごしている

君とは何もかもが違いすぎる

君にふさわしくない相手だと

心ではわかっている

これから君を忘れさせてくれるような人に巡り合えるだろうか

恋は一度きりじゃないよね

また誰かに恋をしても

君のことはきっと忘れない

風がまた涼しくなってきた

もう君には会えない

でも君のことは忘れない

『百万本のバラ』のように

君は僕の存在すら知らない

『百万本のバラ』のように君に僕の想いを届けたい

君の誕生日、祝福してくれる人はたくさんいるだろう

バレンタインデーもチョコを渡す人はいるのかな

桜の季節、君は誰と花見に行くのだろう

夏は海や山へ友達たちと出かけるのだろうか

クリスマス・イブの日も君は忙しいのだろう

一年中、僕は独りでいる

売れない詩人なんて、誰も振り向かない

僕の愛情なんて、ただのジェラシーかもしれない

君に好きな人がいても、多分祝福してあげられない

この恋に破れてもほかの誰かをまた愛せるだろうか

今まで誰かを好きになってもあきらめてばかりいる

僕みたいな人間は誰にも理解されないのだろう

いつも悲しい恋ばかりしている

『百万本のバラ』のようなことは僕にはできない

君が淋しさを教えてくれた

淋しくて 淋しくて 淋しくて

僕は独りの方がいいと思っていた

一人でいても淋しいなんて感じなくなっていた

それが君に出会えて変わった

独りがこんなに淋しいことだと気づかせてくれた

君が傍にいないと淋しい

君の笑顔が見えないと淋しい

君と出会うまでは僕は独りで生きていくつもりだった

僕は淋しさを知り、独りでは生きていけなくなった

君と会えない日々

他の人に目移りしても

やはり淋しい

電話でもメールでもいい

ただ君の声を聴けるだけでいい

君は誰か好きな人がいるのだろうか

そんなことも知らずに君のことを好きになった

君のことを嫌いになろうとするけど

君のことを忘れようとするけど

やはり君のことは忘れられない

淋しくて 淋しくて 淋しくて

君に伝えにいくよ

君に伝えにいくよ僕の気持ち

もし君が僕と付き合ってくれるなら

浮気なんてしないから

気が多いこんな僕だけど

そんなのただの気紛れだから

本命はただ一人

君だけ

きっと君を幸せにしてみせるし

淋しいときはいつでも呼び出してもいいよ

君の声を聴きたいし

君が話したいことは全部聴いてあげる

誰かに話を聞いてほしいとき

一番に僕のことを思い出してくれたら

二人の気持ちは通じあってるのかもしれないね

でもまだ君は僕の気持ちを知らない

もし振られても僕の気持ちは変わらないよ

君を離れてても見守ってあげる

君を想う気持ちは誰にも負けない

だから君に伝えに行くよ僕の気持ち

この恋が永遠に続く愛に変わるように

君に愛を

本当は君のことを好きなのに

他の人のことを想って忘れようとしている

でもやっぱり君のことを考えてしまう

君がもし僕のことを好きならば

ストレートに僕に気持ちを伝えてほしい

もしお互い好きならば

なんだかすれ違ってばかりだね

君にはほとんど一目ぼれでした

あの日から君は僕の心をつかんだまま離さない

僕もストレートに君のことを好きだって伝えなきゃ

そうじゃないとこのまますれ違ってばかりだよ

でも、君の方が少し僕より大人みたいだね

会うたび君はきれいになっている

僕は心だけ少年のまま

こんな僕の心に愛を思い出させてくれたのは君でした

僕に愛が芽生え始めているから

僕も君と出会えて少しは大人になれたかな

君が少しでも僕のことを好きなのなら

きっと二人並んで歩いていけると信じているから

ピンキーリング

左の小指のピンキーリング

指輪を初めてつけてみた

指輪は指によって意味が違うらしい

左のピンキーリングには願い事をかなえる意味があるらしい

今、願いがかなっているのだろうか

ちょっと淋しい気持ちだけど

ちょっとだけ幸せな気分

僕の一番の願いは幸せになること

不幸でも生きてさえいればいいと思っていた

でも生まれたからには幸せな方がいい

指輪が人を幸せにするのではなく

指輪をつけている僕自身のことを幸せに感じているのだろう

ピンキーリングってちょっとおしゃれな感じだし

そんなおしゃれな僕自身のことを好きになっているのだろう

地味に生きるのもいいけど

おしゃれぐらいしなきゃね

自分自身へのご褒美だよきっと

明日もまたいい一日でありますように

ゆうすいの詩集 5

<http://p.booklog.jp/book/58957>

著者：さくらじまゆうすい

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dpmpct5160/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58957>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58957>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ